

坪倉正治      こどもと震災復興 国際シンポジウム 実行委員会 事務局長



“こどもと震災復興”国際シンポジウム 2016 の閉会にあたり一言ご挨拶と御礼を申し上げます。

昨日と今日、2日間ご来場いただいた皆さま方におかれましては、お忙しい中ご参加くださり本当にありがとうございました。英語と日本語が飛び交うディスカッションや、様々な論点の発表が続き、集中力の必要なシンポジウムであったと思います。

また、多くのモデレーター、パ

ネリスト、発表・ご登壇いただきました方々にも厚く御礼申し上げます。

昨日から、市町村長様からの現状報告、第1部、第2部、第3部の研究報告、基調講演、パネルディスカッションと進んできましたが、これらの発表を通して2つのことが分かったのではないかと思います。

1つ目は、まだまだいろいろな問題があるとはいえ、この5年間、着実に前に一步一步進んでいる多くの人の姿があるということです。もちろん、放射線が完全にゼロになるわけではありません。しかし線量は徐々に下がり、そんな中で様々な産業の復興があり、前に前に一人一人が進んできました。そんな住民の姿があるということを感じていただけたのではないのでしょうか。

そして2つ目は、これは私自身も常々感じていることですが、やはり人間は1人で生きてはいけません。多くの方の支えの中で前に進んで行くことができるということです。検査しかり、全ての産業しかり、生活しかり。人間は1人で生きていけず、周りの人に支えられながら、前に一步一步進んでいるのだということを感じていただけたのではないのでしょうか。

今回のシンポジウムにあたって、多くの方々に助けいただきました。例えば、司会の2人、頑張ってくれました。今日はもう帰る準備をしていると思いますが、各地から学生が集まって、いろんな対応をしてくれました。多くの方の送迎は、星槎グループの方々が頑張ってくださいました。今日、ランチョンセミナーで食べていただいたカレーは、朝からずっとスタッフの皆さんが作ってくれたものです。また、会場後方で、この2日間、ずっと通訳をなさってくださいました通訳の方。通訳がものすごくエネルギーのいる仕事であるというのがお分かりいただけると思います。このスピードで私が喋っていることを、ずっと訳してくれています。これをずっと2日間、続けてくださいました。また、この場を仕切ってくださいました市役所や市町村会のスタッフの皆さん、ずっと外で誘導して下さっている皆さん、多くの方に支えられてこのシンポジウムも成功裏に終わることができたと感じております。また今回、様々なデータがまとめられ、発表されましたが、これらがこの地域をさらに前に一歩進むための大きな礎となってくれること確信しております。

本日は、ご来場いただきまして、誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

